

H.S (30代男性)

## 0. 受験歴

2020年 1次未受験/2次合格 【2次学習法】独学

⇒得点 取寄せ中

2019年 1次合格/2次不合格 【2次学習法】MMC通学(マスターA)

⇒結果 D(33)A(65)A(61)A(63) 合計B(222点)

2015~2018年 診断士の勉強から離れる。

2014年 1次未受験/2次不合格(判定はBとCばかりの記憶) 【2次学習法】独学

2013年 1次合格/2次未受験(社内昇任試験とブッキングのため)

## 1. はじめに

運よく今年度合格することができましたが、自分は前年度(2019年度)MMCを受験し、今年度は独学でした。1年空いてしまっただけではありますが、MMCの良かった点について述べていきたいと思います。ちなみに私は、諸事情で途中勉強から離れており、ほぼ何も覚えていない新鮮な頭(笑)で2019年度MMCを受験しました。

## 2. 申し込んだきっかけ

私は、2018年の冬、12月の中旬にMMCの土曜日クラスを速攻で申し込みました。きっかけは、将来的な転職を考えており、診断士の資格を取得し箔をつけたいと思ったからです。MMCを選んだ理由は、①合格率が予備校の中でも高いこと、②2014年度に某大手予備校に通っていたが、点数も伸びず、原因もわからず消化不良だったこと。一方で、MMCの答えは非常にわかりやすく、自分でも書けるのではないかと思ったこと、③2014年の不合格時に、近くの受験生がMCサークルを見ながら復習しており、興味を持っていたことです。(あの時MMCに気づいていれば…)

## 3. 自分流MMCでの勉強法

MMCに申し込めば、当然カリキュラムに沿った学習を行うと思いますが、ほかに自主的に行っていた勉強を参考までに紹介いたします。

### (1) 12月~5月ころ

MCサークルのキーワードを事例Iから事例IVまですべて単語カード(100円程度のもの)に書き写し、それを完全に自分のものにするまで通勤時間に眺めていました。

### (2) 8月以降~直前期

講義の最後に配布される応用問題集を書き込みせずにファイリングし、何度も解きました。難易度が高いため、1日2問程度を目安に説いていました。NPVは、焦る気

持ちを抑え、きちんと表を書いて計算するようになったところ、失点が少なくなりました。

#### 4. 1年目の自己分析

5月以降事例Ⅲと事例Ⅳは安定して60点以上を取ることができるようになりましたが、事例Ⅰと事例Ⅱは最後まで安定して60点を越えられませんでした。

その理由を自分なりに考えてみたのですが、事例ⅢとⅣは、キーワードで答えに落とし込むための状態（つまりC社やD社が直面している問題点）が比較的ワンパターン化していると感じましたが、事例Ⅰと事例Ⅱは、事例企業の問題点や解決へのアプローチがまちまち、もしくは切り口の幅が広く、様々で書きづらいということかなと思います。

まさに、2019年の事例Ⅰは勝手に罫にはまり、①問題点の抽出ができない、②設問間の切り分けができない、③一見マーク的に答えるような設問がある、などの理由で冷静さを失い、いくら書いても点数が入らないような文章を書いていたという気がします。

#### 5. 不合格になって

事例Ⅰが40点を越えられていれば他の事例でカバーできるのでは、と思っていましたが、甘かったです…。その後、悲しみが落ち着いてから、なぜ落ちたのか理由を考えました。以下、2次突破に必要と思われる能力に関する自己分析を行いました。

各年度の到達水準（自意識ベース）

能力	2019年（不合格）	2020年（合格）
設問文の要求要素分析力	△	◎
与件文からの要素抽出力	△	○
設問要求に素直に回答する能力	○	○
キーワードを用いて回答する能力	◎	◎
与件文の要素活用力	○	○

確かに上記で△の部分については、あまり意識しないまま毎回答練に臨んでいました。解説を聞く際に、「なぜこの部分（解答根拠）を抜粋できているのか」の疑問を深く考えることをしていなかったのですが、振り返ればそれを突き詰めることが大きな基礎力となるべき部分だったのかもしれない。

#### 6. 合格年に努力したこと

シンプルに、上記課題を解消すべく勉強しました。

##### (1) 設問文の要求要素分析力強化

ネットでフリーダウンロードできる過去問及び解答用紙を用いて、過去問を集中して解きまくりました。週に事例二つ、2週間で1年分解くイメージです。空いた曜日は

復習に使いました。その際上記の分析力強化のために、設問文をスラッシュで区切ることを意識しました。設問文は大体 3 つには分解できるので、その制約条件を一つ一つ整理し、回答のブレ幅を小さくしていきました。

## (2) 与件文からの要素抽出力強化

設問を分析してから与件文を読んでいます。その際、2019 年まではただ漫然と重要と思われる個所にアンダーラインを引いていました。そのまま問題文を読み切ると、アンダーラインが引かれている個所は多数あるが、なぜ引いてあるのかわからず、設問にどれを使うのかわからず、という状態に気づきました。

そこで、アンダーラインを引いた個所に必ず SWOT のどれかを振っていくようにしました。人によってはマーカーで色分けしているのかもしれませんが、「弱みを改善し、強みと合わせ機会を活かす、もしくは脅威に対応する」というストーリーがどの事例にも当てはまることに気づきました。多分、すでに合格している方々には当然のことだったのかもしれませんが、漸く気づくことができました。

上記 2 つの課題改善を意識したところ、点数を落とさない⇒結果として模試などでも点数が安定するようになりました。

また、個別の改善点としては、事例 I の爆死を避ける対策を考えました。事例 I は、設問 1 から最後の設問まで、経営ビジョン（企業ドメイン）を踏まえた一貫した答案構成になっていないと大幅に減点されるのでしょうか。社長の思い⇨経営ビジョンを意識するようにはしました。

## 7. 最後に

自分は、直近の 2 次試験を経験しないで MMC を受講したため、経験した受講生より知識面で気後れし、いつも後ろのほうに座っていました。

他の方の合格体験記を拝見すると、前のほうに座ったほうがよかった、前に座り脳みそに汗をかきながら講義に取り組むことがいい緊張感・刺激になったと書かれていました。MMC を受講される際には、先生方に指名されるかもしれない緊張感を持つ前の席に積極的に座ることをお勧めします。きっと集中力が違うと思います。

2019 年、東京理科大学で中居先生に「いつも通りの答案を置いてくるだけでいいよ」と言ってもらったのにそれができず、よりによって事例 I で爆死したことがずっと無念でした。今年の会場（中央大学）でも中居先生がいらっしやるのを見て、今年こそ合格したい！とこっそり心を燃やしました。何とか結果を残せて本当に良かったです。

MMC に申し込んだあの日からもう 2 年も経ったのですね。寒い時も暑い時も駿河台記念館に毎週通っていたのがいい思い出です。徳川先生、中居先生、他先生方、本当にお世話になりました、ありがとうございました。